

千八百八十九年三月八日 (アーキテクト中達)

○筑豊興業鐵道景况

筑豊興業鐵道の筑前國穂波嘉麻較手遠賀及豊前國田川の五郡に亘り其至要の目的の石炭運輸にして其他の物産旅客の第二の目的に属せり抑も此五郡の頗る煤田に富み毎年巨額の石炭を産出す然れども從來運輸甚た不便にして毎に幾多の冗費を抛たざるを得ず而して纔に遠賀の一川ありと雖ども流域狹隘にして多くの舟楫を通するに足らざるのみならず例年繁農の期に至れば堰と設けて灌漑に供するの故に全く舟楫を杜絶するに至る其不便不利又た言を待たざるなり今鐵道を布設し此弊を避くるは最も急務にして坑業をして益々旺盛ならしめんとするには之を攔て他に求むへからずと謂ふも蓋し誣言に非ざるへし當初此議起るや賛成者殊に多く未だ幾ならずして計畫己に整ひ昨明治廿一年四月之を政府に出願し直に假免状を受くるに至れり於是同年十一月豫測に着手し同十二月末測量製圖等悉皆其業を終へ目下本免状下付出願中なり

豫測路線の一線の筑前國穂波郡飯塚驛に起り遠賀川に沿ひ片嶋幸袋勝野等の諸村を經て較手郡直方町に達し一線の豊前國田川郡赤池村に起り市場上境を經て遠賀川を渡り直方町に至り二線相合し更に進て植木小牧と通過し再ひ遠賀川を渡り遠賀郡に入り中間吉田の二村を經て大膳堀と通過し折尾村に至り九州鐵道線に連絡し一線の猶ほこれを交叉し進て陣ヶ原ニタ嶋藤の木村等を經て須太良村に至る哩數總て廿七哩五十鎖なり而して線路の概ね河

マンチエスター	一、四〇九	次ニ含有	二八九	二八九	二〇、五一
グラスゴー	一五〇〇	二一〇	三六二	四七二	三二五

瀕海岸に沿ひたるか故に傾斜極めて緩にして百分一の勾配を以て其最急とす

工事上困難と思はるゝは遠賀川植木川の架橋工事ならん川幅ハ各五百尺以上なるのミならず同川の氾濫する水害地を經過するを以て築堤高からざるを得ず而して小丘所々に散在すと雖も塙鑿築堤互に其當と得ず是を以て夏期霖雨の際乱溢する大洪水を全く凌ぐに足らざるものゝ如し故に線路の通過する地勢稍や平坦なるにも拘はらず築堤橋梁水拔等に費す所莫大なれば尋常平路のものより工費大に超過すへきなり(笠井君報)

○山梨鐵道

甲武鐵道ノ八王子ステーションヨリ起工シテ笹子、小佛ノ兩峠ヲ經テ(笹子ノ

隧道大凡壹哩半)甲斐國甲府ニ達スルモノニテ其線路ノ延長大凡五十哩其工費貳百萬圓ノ豫算ニテ本年三月二十五日ヲ以テ布設許可ノ義ヲ願出タリ尤モ東京ヨリ甲府ニ達スル距離ハ甲信鐵道線ニ比スレハ大凡六十哩ヲ減縮スル割合ナリト

○播丹鐵道

已ニ昨年十二月布設ノ許可ヲ得タル飾磨馬車鐵道ヲ止メ直ニ飾磨港ヨリ姫路、生野ヲ經テ丹波ノ舞鶴ヘ達スルモノニテ此線ノ延長大凡七十八哩其工費豫算ハ貳百萬圓ヲ以テ去月出願セリ

○兩毛鐵道

現今桐生伊勢崎ヨリ前橋間ヲ建築中ニテ已ニ桐生伊勢崎間ハ建築用ノ瀛鐵車ヲ運轉セリ又タ同會社ハ三月中ニ前橋ヨリ澁川間(四里)及ヒ朽木ヨリ鹿沼間(七里)ノ延線ヲ出願セリ又タ已ニ開通シタル線路小山ヨリ桐生迄三十三哩ノ利益配當ハ僅カニ貳分二厘ナリト

○水戸鐵道

已ニ開業シタル水戸鐵道小山ヨリ水戸迄四十二哩ニ對スル利益配當ハ五分